

# 令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年5月28日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並が多い

○6月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの増減	6月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
カンショ	① ナカジロシタバ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② イモキバガ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
さとうきび	① 黒穂病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② バッタ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↘	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↘)
	④ メイチュウ類 (イネヨトブ)	並	↘	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↘)
（かんきつ） 温州みかん	① かいよう病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の降水量が平年並か少ない見込み
	② 黒点病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ そうか病	並	→	並	今後1か月の降水量が平年並か少ない見込み
	④ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ミカンハモグリガ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑥ ハダニ類	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
（かんきつ） タンカニン	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移(→) 今後1か月の降水量が平年並か少ない見込み
	② そうか病	(発生なし)並	→	並	今後1か月の降水量が平年並か少ない見込み
	③ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ ミカンハモグリガ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑤ ハダニ類	やや多	↘	並	平年の発生量の推移(↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○6月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの増減	6月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗） トラップ誘殺虫数が平年並
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
ヘチマ	① ベと病	多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）
	② うどんこ病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③ ハモグリバエ類	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗） 今後1か月の気温が平年より高い見込み
	④ ヒメクロウリハムシ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤ ミナミキイロアザミウマ	やや多	↘	やや多	つる先の平年の発生量の推移（↘） 今後1か月の気温が平年より高い見込み
（ゴーヤー） 施設	① うどんこ病	やや多	—	—	
	② ミナミキイロアザミウマ	多	—	—	
	③ アブラムシ類	多	—	—	
（ピーマン） 施設	① タバココナジラミ	多	—	—	
オクラ	① うどんこ病	多	→	多	平年の発生量の推移（→） 今後1か月の降水量が平年より少ない見込み
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み 平年の発生量の推移（↗）
	③ アブラムシ類	並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み 平年の発生量の推移（↗）
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	5月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布する。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年4月頃から発生が見られ、5～6月に多くなる。</li> <li>・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。</li> <li>・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。</li> </ul>
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	<p>果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。</p> <p>せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。</p>

# 令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年5月28日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○6月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの増減	6月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↘	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↘)
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↘	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↘)
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 新梢の発生量が増加するため
	① マンゴーハフクレタマバエ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗) 新梢の発生量が増加するため
	② ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
オクラ	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 収穫期に入り草勢が低下するため
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
	③ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	5月の宮古島及び多良間島のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布する。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年4月頃から発生が見られ、5～6月に多くなる。</li> <li>・宮古島でも本病の発生が見られている。</li> <li>・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。</li> <li>・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。</li> <li>・新植での発病は少ないが、株出し回数が多くなるほど発病が多くなる。</li> </ul>
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する

# 令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年5月28日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か少ない	平年並か多い

○6月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの増減	6月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
水 稲	① 葉いもち病	並	-	-	
	② ごま葉枯病	多	-	-	
	③ セジロウカ	やや多	-	-	
	④ スクミリンゴガイ	並	-	-	
さ と う き び	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↘	並	芯枯莖率の平年の発生量の推移(↘)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↘	並	芯枯莖率の平年の発生量の推移(↘)
マ ン ゴ ー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み
ゴ ー ヤ ー ( 施 設 )	① うどんこ病	並	-	-	
	② 斑点病	並	-	-	
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	-	-	
	④ アブラムシ類	並	-	-	
オ ク ラ	① うどんこ病	やや少	↘	やや少	平年の発生量の推移(↘)
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	↗	やや多	今後1か月の気温が平年より高い見込み
	③ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の気温が平年より高い見込み

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。  
 ●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値  
 ●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値  
 ※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

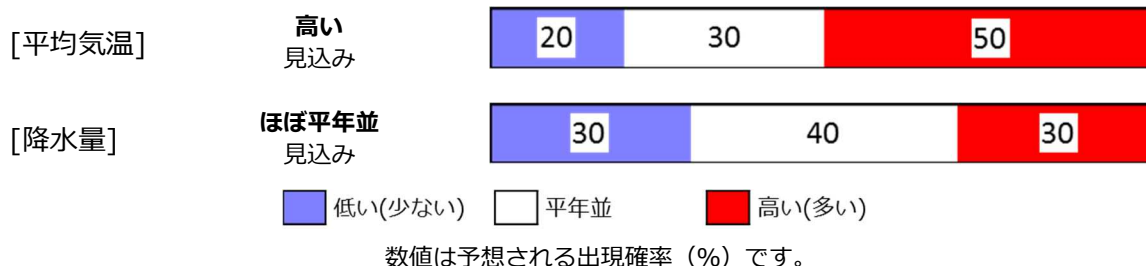
○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	5月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲され、ほ場の調査でも幼虫が確認されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	黒穂病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年4月頃から発生が見られ、6～7月に多くなる。</li> <li>・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。</li> <li>・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。</li> </ul>
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	果実肥大期まで定期的に予防散布を行う。 せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する

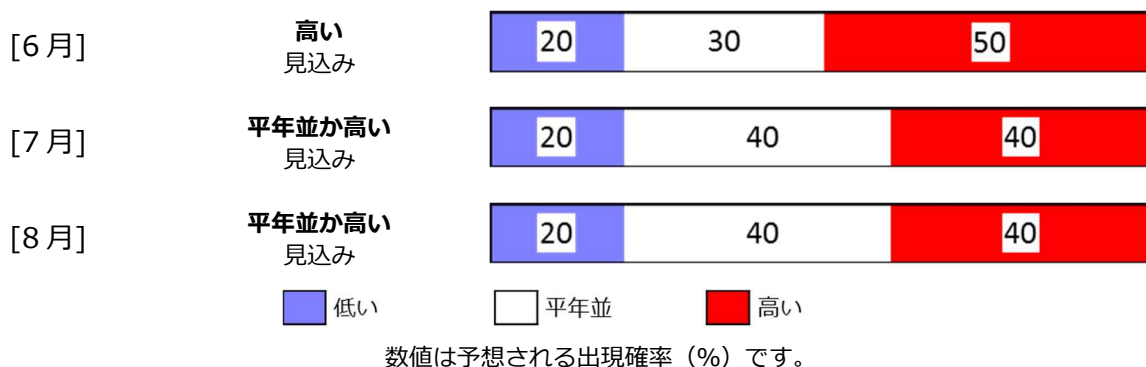
向こう3か月の天候の見通し  
沖縄地方（6月～8月）

- 気象予報のポイント
  - 暖かい空気に覆われやすく、向こう3か月の平均気温は高いでしょう。
  - 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並みでしょう。

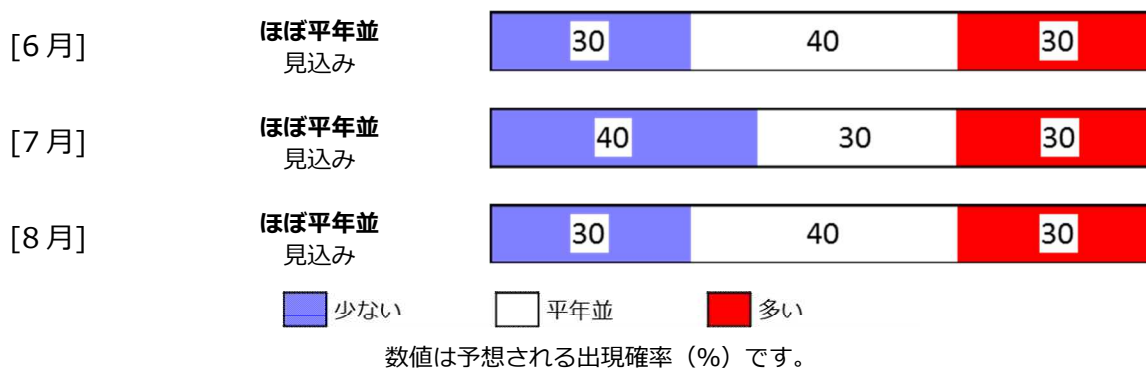
○ 向こう3か月の平均気温・降水量



○ 月別の平均気温



○ 月別の降水量



詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157